

# 海外大学院準備コース報告

小野俊祐

東京大学理学部生物学科

2024年2月26日

## はじめに

東京大学理学部生物学科の4年で、来年から沖縄科学技術大学院大学（OIST）の博士課程に進学します小野俊祐です。2023年より豊田理化学研究所の海外大学院進学準備コースで支援をしていただき、海外大学院への進学の調査と準備をしておりました。最終的には自分にとって最適な選択は留学ではないと考え、留学の準備を取り止めて OIST への進学を決めました。それまでの準備の様子をご紹介します。

## 現地調査

博士課程でやりたいと考えていた生物学の実験の自動化を目指すラボラトリーオートメーションの分野に関連する研究室をいくつか探して、その研究室にやりたい研究内容を簡単にまとめて訪問してディスカッションできないかを尋ねるメールを送りました。訪問するにあたって、アメリカ西海岸の大学を中心にメールを送ったのですが、最も志望度が高かったオックスフォード大学の Harrison Steel 先生から最初に了承の返信をいただけたので、イギリスを訪問することにしました。また、地理的に近いケンブリッジ大学も併せて訪問して見学しました。

研究室訪問では、コーヒーを片手に街や大学を案内してもらいながら現在の研究内容や DPhil で研究したいことなどを話し、実験室や作成しているシステムの実物や機械の見学、進学にあたってのアドバイスなどをしていただくという流れでした。また、研究室単位で学生を採用するわけではないので合格確約と言うことはできないが、SOP の添削などはしていただけると言っていました。

また、研究室だけではなく、生物学の研究において重要になる博物館や植物園の見学、カレッジ(寮)の様子や設備、料金などの調査、周辺の生活に必要な施設や物価の様子を調査を行いました。



(左) オックスフォード大学で訪問した Information Engineering Building (右) ケンブリッジ大学の Department of Plant Sciences

### その他の留学準備

ケンブリッジ大学とオックスフォード大学は IELTS などの英語試験で総合点だけではなく四技能のそれぞれについて基準点が設けられており、Writing と Speaking について点数が取れていなかったため、Writing の添削や Speaking の練習ができるオンラインサービスを利用して準備を行っていました。

SOP に関しては準備コースや進学コースに応募した時の SOP を参考にしつつ、大学ごとに書く内容をまとめていました。実際に出願する大学について英文校正や添削に出す予定でしたが、以下の通り国内大学である OIST のみ出願したため、豊田理研の支援は使用しませんでした。

その他については研究を進めることが最も重要な留学準備だと考えたため、特別なことは行いませんでした。

### 出願先選び

出願先を探すのには下のような条件をなるべく満たしていることを条件にしました。

- ラボラトリーオートメーションまたは微生物培養を行っている研究室がある
- 生物学・工学双方からのアプローチを行っている
- コースとして他分野への挑戦がしやすい環境がある
- 学生や研究成果の質が高い
- 周辺に自然が多い
- 温暖な気候

全てを満たすのは難しいですが、Oxford、Caltech、MIT、Harvard などを候補としていました。スイスの ETH も候補としていましたが、行きたいコースに修士号が必要だったため断念しました。

また、OIST には合格できる自信がある程度あったため、実際に出願するのは OIST よりも

志望度が高いところに絞ろうと考えていました。ただ、先述の現地調査やその後の調査を踏まえると、多くのコースではある程度近い分野では新しい分野へ挑戦しやすそう(例えば生物学の中で植物をやっていた人が神経に転向する)でしたが、学部の枠を超えて全く異なる分野を学ぶことは難しそうであり、一方で多分野の学部は専門性がそれほど高くないように感じました。そこで、そのような環境が整っている OIST が最も良いと考え留学をやめることにしました。

### 良かった点と反省点

OIST は沖縄県にある国内大学ですが、院試の方式はほぼ海外大学院と共通しているため、留学準備の内容はそのまま役立てることができました。特に進学準備コースへの申し込みで作成した書類や、SOP の作成の準備は OIST へ出願する際に非常に役立ちました。

一方で、いくつか反省点もあります。まずは、豊田理研の支援の開始時期が遅かったことと費用を半分近く残してしまったことです。これらには出願の際に SOP 添削に使用できるようにするために開始を遅くして(支援期間は開始から 1 年)、費用を温存していた事情がありますが、やはりより早く準備を開始して支援をより有効活用すべきでした。また、特に費用が残っていたことに関しては、現地調査以外に使い道があまり思いつかなかった、準備で何をしたら良いか分からなかったことがあります。現地調査を再度行い、行けなかったアメリカへ行っても良いと助言もありましたが、複数の研究プロジェクトを進めていたため、支援を使用することありきの準備によって研究がおろそかになると本末転倒だし結果的に留学にも繋がらないと考えて辞退しました。また、現地調査でも結果的に 1 つしか研究室のアポイントが取れずに、現地での調査を十分有意義なものにできたかは疑問でした。しかし、豊田理研とより緊密なやりとりをしてアドバイスなどを求めていればより支援を活用することができたのではないかと反省しています。

### おわりに

結果的に OIST に進学することに決めましたが、留学の準備を行った経験はこれからの研究生活で国際的に活動するために非常に役立つと思っています。

最後になりましたが、豊田理研のみなさまには費用面に限らずにたくさんのご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。